第２回　伊勢崎市部活動地域移行検討委員会　議事録

期　日　令和５年１０月　２日（月）１０：００～１１：３０
会　場　伊勢崎市役所　東館５階第１会議室
出席者　菅谷美沙都委員、武井義夫委員、平林知巳委員、堀田享委員、山田千広委員、狩野浩之委員、小野賢委員、矢島貢委員、齋藤亮一委員、結城啓之委員、下山祐樹委員　、

１　開会
２　あいさつ　（三好教育長）
・お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。
・やっと涼しくなりましたが、厳しい暑さの中、スポーツに関わる方々が子供たちの命を守り抜いていただいたことに感謝申し上げます。
・中体連理事長の下山委員さんがＮＨＫ６３０に取材を受け、その中で「子供たちの命がかかっている。もっとやりたいという子供たちがいるが、命最優先、学校は子供たちの命と安全を守りながらスポーツをやっている」と報道されました。下山委員さんに感謝申し上げます。
・今後もますます暑くなると想定されますが、その中で、部活動地域移行をどのように推進していくかを十分に検討していく必要がある。気候にあったスポーツの在り方、これまでと違った視点で考えていく必要がある。今後の、スポーツ活動の在り方を考えねばならないと考えている。
・先日の伊勢崎市議会で体育館エアコン設置の答弁をさせていただいた。来年度以降、まずは中学校から設置していく。エアコンが設置されれば解決ではない。体育館は災害時の避難場所であるということも考えておく必要がある。
・部活動地域移行については、今後、モデル地区を境地区と設定し、子供たちに対し、アンケート調査を実施し、子供たち当事者の声や思いを大事にしながら進めていく。
・子供たちのニーズを把握し、ニーズのある競技で、指導者や受け皿の確保が整うところから始め、そして発展させていく形をとっていく。
・この取組は長い時間を要することであるので末永くお力添えいただきたい。
３　自己紹介
菅谷美沙都委員（上武大学）
齋藤亮一委員（境南中）※境西中、境北中の代表として参加
５　部活動地域移行について　（事務局より）
６　意見交換
（委員）
・野球部でモデルにしていく件について、該当の野球部より話があったのか。
・大学側は承知しているのか。

・月一回の指導で、その他の時間は先生方が指導するという事で良いのか。９月の検討委員会では、どのような意見が出たのか知りたい。

（事務局）

・境地区の児童生徒にアンケート調査を実施した。

・アンケート結果をもとに、境地区の中学校長に部活動地域移行の方向性について説明し、概ね承諾頂けた。

・県内だと大学との連携は行われていないが、他県には事例がある。地域スポーツ少年団が受け皿になっている事例もある。

（委員）

・保護者の意見はとったのか。

（事務局）

・保護者に対してのアンケートは実施していない。

・子供たちは、地域に活動する場所があれば参加したい。（９割）

・地域で活動してみたいという肯定的な意見が多かった。

（委員）

・大学の野球部員は２００人。勝利主義の学生が多いので、どのように教えるのか、どのようなことに配慮するのか等を徹底しないといけない。学生に対して、指導者研修会を行い、スポーツ指導の在り方等、市としての考えを共有したほうがいい。

（委員）

・部活動地域移行のモデルプランが具体的になってすばらしいことである。できるところからスタートということだが、参加する生徒は野球部なのか、野球部に所属をしていないが野球をやりたいと思う生徒も対象とするのか。

・モデルプランを通して課題など浮き彫りになる。小学生も巻き込みながら行えると幅広いメッセージになる。

・多世代でやっていく必要がある。

・働き方改革として、大きな負担軽減になる。

（事務局）

・部活動に所属している子供たちを地域の指導者に指導してもらう形を想定している。将来的には、地域に根差した団体で活動できるように広げていくべきと考えている。

（委員）

・自分がやりたいことができない。そういう子供を救っていきたい。

・このプランの意味を考え、救済的なものであることを忘れずに進めてもらいたい。

（事務局）

・部活動地域移行の目指すところは、「やりたいを実現できる、誰でも充実した活動ができる」というところ。皆さまから意見を頂きながら、在り方や方向性を検討し

ていきたい。このプランが実際に動けるかどうかという視点も頂きたい。

（委員）

・１０月に事務局より、モデル事業の説明を頂いたが、だれが窓口になるのか。

（事務局）

・まずは、教育委員会がコーディネーター役を務めていく。

（委員）

・それぞれの立場（顧問・子供・保護者）の声がある。

・月一回の活動だが、将来、顧問が手を離すとなると、平日だけの指導となってしまう。土日の試合を大事だと考えている顧問がいる。

・現時点で、関係する方々にどのように説明していくか。それぞれの立場の方が、合意形成を図れるように丁寧に進めていただきたい。

・早い段階で、顧問に説明する機会を設定していただきたい。

・顧問や保護者、子供の心情を大切にしてほしい。

（委員）

・境地区の中学校３校と、合同部活動を組んでいる第四中、四ツ葉が集まって練習する形でよいか。

・合同で、まずは月１～2 回やる練習会を想定してとのことだが、いざ大会になったときはどうなるのか。練習会が、技術クリニックみたいな働きになってしまう。

・指導の仕方や熱量に差が生じ、普段の学校での指導と、今回のモデル事業の活動とを比べ、大学からの指導に満足してしまえば、今後、顧問の指導を聞かない生徒がでてきてしまう恐れがある。

（事務局）

・指導者によって、指導が異なるところはでてしまう。

・日常的に、学校と地域活動の指導者との情報交換が必要であると考える。

（委員）

・顧問はその場にいるが、指導に携わらないという捉えでよいか。

（事務局）

・初めの段階では、顧問は、連絡調整や緊急時の対応等で活動場所に複数校の顧問が輪番で来ていただく。その後は、外部に任せるという形で考えている。

（委員）

・部活動を外部へ、地域へもっていくという考えではなく、地域の中でスポーツに携わりたい子供にチャンスを与える。やりたかった子にチャンスを与えるものと思っていたので、説明を伺うと違ったのかと感じた。

・学校と地域の指導者の意思統一が必要である。

（委員）

・境地区の中学校３校、第四中、四ツ葉の野球部顧問は、経験者なのか。

（委員）

・おそらく境西中、境北中、第四中、四ツ葉の顧問は、経験者であろう。

（委員）

・最近の子供たちは、ＹｏｕＴｕｂｅで練習方法や戦術についての動画を観ているので、顧問の指導との違いを感じている。

（委員）

・野球の投げ方にしてもいろいろな考え方や方法がある。

・打撃にしてもチームプレイにはいろいろな考え方や方法、思いがある。

・指導者が変わればズレが生じる。「楽しくやる」中でも。

（委員）

・社会の中でも、いろいろなやり方があることを知るのがいい。

（委員）

・子供たちに、指導者にはいろいろな考え方や方法があることを、前もって伝えておきスタートできれば、いいのではないかと考える。

・いろいろなやり方や指導法がある。

・「方法論」として教えるのでも良いと考える。

（委員）

・境地区でまずは、軟式野球で実施しようとしていることは、新しい枠組みを作ろうとしていることになる。

・この活動をどのように育てていくか、発展させていくかという段階である。最終的には地域で支えていただくという考えが大切である。

・外部と連携している部活動では、子供は指導に違いがあることは理解している。意欲的な子供はだいたいスポーツ少年団で活動している。テニスや卓球などは指導者によって指導に違いが起きている。

・いろいろな部活動の中で、例えばバスケットボールについては、部活動と地域クラブが並列の関係だが、競技によってどうなるか分からない。

・野球で、地域移行の根っこの部分を作っていく。大きく育つかもしれない。地域が全面的になるかもしれないし、塾のような形式になるかもしれない。

（委員）

・部活動地域移行の最初の一歩を踏み出してやってみる。

・野球は合同でやればいけるのではないかと考える。

・ソフトボールの競技についても、３校合同部活動があるが、モデル事業になり得る。ぜひ最初の一歩を。

（委員）

・部活動地域移行の課題や問題点は多々ある。まずはたたき台としてやってみることが大切である。

・この先、部活動地域移行を拡充していく中で、上武大学とはパートナーシップとして継続可能なのかどうか。

・自分だったら上武大学の学生が教えてくれるのなら、ぜひ行きたいと思う。

（事務局）

・上武大学からは、連携をさせていただきたいという言葉を頂いている。他の競技部でも協力について検討すると言われている。

（委員）

・上武大学の硬式野球部だから、ぜひ指導を受けたいという保護者の思いがある。アスリートから助言をもらえることはとても励みになる。

・これから部活動地域移行を拡充していくにあたり、今携わっている顧問は、子供、地域に引継ぎができるところまで一緒にいてほしい。

・年間スケジュールの作成が必要である。

・誰が指導にあたるのか、を明確にしておいたほうが子供も保護者も安心する。

・子供たちが変わっていく姿を見ていきたい。

（事務局）

・指導者の派遣について協力をお願いしたい。

（委員）

・各競技協会に話をしている。

・指導に携わる者は、指導ライセンスを所有している必要があるのか。協会レベルでも指導者になり得るのか。本協会としても、指導者に対する研修会が大切であると考える。

（委員）

・第二中の校庭では、土曜、日曜に現教職員（部活同顧問ではない者）によるサッカースクールを実施している。そのスクールでは、子供たちが上達を実感したり楽しさを味わったりすることができている。各中学校のサッカー部顧問は、ありがたいと感じている。

・競技経験のない顧問は、指導にあたり工夫して指導を行ったり、他の中学校顧問と協力して指導を行っていたりしている。

・地域スポーツの指導者とつながっているということはとても大切である。

（事務局）

・スポーツ協会からの指導者の派遣はお願いできるか。

（委員長）

・各競技団体に指導者の派遣を依頼してください。

（委員）

・今回の部活動地域移行のモデルでは、上武大学との連携だが、今後、拡充していく中で、スポーツ協会の力は必要であると考える。

・まずは、運動部活動からのスタートだが、文化部活動にアプローチする視点も大切である。

・中学校にない競技や種目についても、地域で活動できる方法について検討していく必要がある。

（委員）

・スポーツ協会は、アスリートを育てたいという思いはある。各カテゴリーの中での指導者研修会を行っている。年７回くらい実施している。

・怪我のとき、どう対処、対応するかは知識として必要である。

（委員）

・境地区の中学校３校でやっていく中で、具体的な方法については、今後、打ち合わせを行っていくのでよいか。活動費等についても相談していくのか。

（事務局）

・保護者負担の有無についても検討している。

・引き続き、部活動地域移行を具現化していく中で、相談させていただきたい。

（委員）

・部活動地域移行の流れや方法について、具体的に見えるようにお願いしたい。お金についても同様にお願いしたい。

（委員）

・各中学校の課題として、部活動の設置数と教員数があっていない。

・学校現場では、部活を減らしたいが、減らせないのが現状である。廃部にする場合、子供たちから「何で部活をなくすのですか」と問われる。

・部活動を整理していくことが大切だが、子供たちのニーズに応えていかないといけないという思いもある。

（委員）

・部活動を減らしていくのは大変だと考える。

・市教育委員会、地域と連携していく必要がある。

（委員）

・部活動は、学校の魅力の１つである。だから廃部にできない。保護者の思いもある。ジレンマを抱えている。どうやってうまく整理していくか。

（委員）

・市民の方が、部活動地域移行について知らない。

（委員）

・市の広報で周知されてはどうか。

7　諸連絡

・市民の方への発信について検討していく。
　市の広報やＨＰでの情報発信を検討していく。

（委員）

・市の広報やＨＰは全く見ていないからＳＮＳを使ったらどうか。いろんな意見を聞くことができる。

8　閉会